2020
No.182

福祉のまちづくり

2 ごあいさつ
4 特集 学区社協の今③(最終回)
～学区社協の実態調査～
6 各部署の取組を紹介
12 ご寄付のお礼・生活支援員の募集

CHECK

ひと・まち交流館 京都 は、市民の自主的な活動を支援します

ひと・まち交流館 京都 は、「市民活動総合センター」「福祉ボランティアセンター」「長寿すこやかセンター」「景観まちづくりセンター」の４つのセンターの複合施設であり、京都市の福祉やまちづくりなどに関する市民の方々の自主的な活動を支援する拠点です。

大小の会議室のほか、和室や児童室、福祉用具展示コーナー、作品展示コーナー、パソコンコーナーなどがあり、ボランティア活動や市民活動に取り組んでおられる多くの市民の方々にご利用いただいています。

写真は、地域の子育て支援に取り組んでおられる方々が、乳幼児の遊び道具や授乳室を備えた児童室を利用されているところであり、子育ての苦労や悩みを分ち合う場となっています。(詳細は10ページ)。

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会

人に優しく、災害に強い、社協の総合力とネットワークを活かした福祉のコミュニティづくりを進めます。

京都市の社協基本構想に基づく共に生きる福祉のまち「京都」の実現へ

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会　会長　小石（こいし）玖三主（くみす）

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、晴れやかに新年を迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の運営と事業の推進に対し、温かい御理解と一方ならぬ御支援を賜り、心から感謝を申し上げます。本年も京都市の社協活動と地域福祉の発展のため、より一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、人口減少社会を迎え、社会的孤立や貧困等の問題が深刻化する中、地域に暮らす全ての人々が、つながり、支えあい、地域をともに創る「地域共生社会」の実現に向けて、私ども社協が果たす役割への期待がますます大きくなっております。

そのような中、京都市の社協は、市・区・学区の三層の社協組織の連携により、住民自身が身近な地域の福祉課題を明らかにし、その解決を図る住民主体の地域福祉活動の充実を図ることを基本としながら、判断能力が不十分な方の権利を擁護する日常生活自立支援事業や法人後見事業等を実施するとともに、ひきこもり等の制度の狭間の問題に対し、寄り添い支援に取り組む地域あんしん支援員設置事業、生活困窮者に対し、社会生活自立や就労自立に向けて支援するチャレンジ就労体験事業、生活支援サービスの充実に取り組む地域支え合い活動創出事業等の京都市から受託する様々な事業を、社協の「総合力」と「ネットワーク」を発揮して推進して参りました。

折しも、本会では、『共に生きる福祉のまち「京都」の実現』を目指して、住民自身が主人公として地域を創る「住民主体」を基調に、多様な主体の連携と協働による「協議体」、一人ひとりが輝くための「権利擁護」、災害を見据えた「要配慮者支援」の４つの視点を掲げて、今日的な課題に対応するために、「京都市の社協基本構想」を策定し、現在、これまで積み上げてきた実績を礎に、新しい令和の時代に相応しい活動の発展、強化に向けた推進計画の検討を進めています。

また、区社協では、「地域福祉活動計画」の策定に向けた取組が進められ、学区社協では、地域課題を踏まえた「学区重点プラン」に基づく身近な地域の福祉活動の充実に努めていただいており、干支の始まりの子年に当たる本年を、市・区・学区に広がる三層の組織力を活かした取組を力強く展開するスタートの年と位置付け、さらに邁進して参る所存でございます。

今後とも、市民の皆様の信頼に応えるため、京都市とのパートナーシップと、地域福祉推進の車の両輪である京都市民生児童委員連盟をはじめ、関係機関や団体、福祉施設等の皆様との連携のもと、役職員が一体となって『共に生きる福祉のまち「京都」の実現』に向けて邁進して参りますので、御支援並びに御協力をお願い申し上げます。

令和二年 元旦

笑顔あふれる京都を共々に！
京都の強みである市民力・地域力・文化力を更にいかして！

京都市長　門川（かどかわ）大作（だいさく）

あけましておめでとうございます。

京都市社会福祉協議会におかれましては、「人にやさしく、災害に強い、社協の総合力とネットワークを活かした福祉のコミュニティづくり」を基本目標に、地域福祉の推進に日々取り組んでいただいております。小石玖三主会長、村井信夫顧問をはじめとされる役員並びに会員の皆様の福祉に対する御熱意と多大な御尽力に、心から敬意を表しますとともに、皆様の常々の御指導・御支援に心から感謝し、この一年の御多幸をお祈り申し上げます。

市長就任以来、現地現場主義に徹し、お訪ねした1万を超える現場・市民の皆様の御活動の場で、改めて京都の市民力・地域力の素晴らしさに感動、感謝。皆様のお声を市政にいかし、厳しい財政の中でも、いのちと暮らしを守り、福祉、子育て・教育、文化、環境、景観、経済の活性化、防災・安心安全を最優先に、皆様と共に汗する「共汗」で挑戦し続けてまいりました。

お陰様で、例えば、ごみ量はピーク時から半減。国基準の１・３倍の優れた保育士を確保し、保育所等６年連続待機児童ゼロ。ひきこもりをはじめ複合的な課題が顕在化する「８０５０」問題への対応に着手。小中高の教育を充実。市内の犯罪は５年間で45％減と過去最少。京都経済百年の計「京都経済センター」をオール京都で開設し、中小・地域企業を応援する条例を制定、支援体制を拡充。

民間で実施する方が良い仕事は民間に！ 行財政改革の断行！ 市職員を３３００人削減、年間２７０億円の費用を捻出し、市民の皆様にお約束した政策・公約を実現！（国の交付税の大幅削減、昨年の災害対策、福祉予算増等により財政は厳しい状況）

これらの結果、京都市が、「誰一人取り残さない」社会を目指す国連の「ＳＤＧｓ」先進度や都市力の総合評価（２年連続）で全国１位に。そして、市内の雇用者数は５年間で５・７万人（うち正規雇用４・２万人）増、市税収入は６年間で２４６億円増など、未来に明るい兆候！ 市民の皆様の御尽力の賜物と心から感謝しています。

一方、観光消費額が１・３兆円（京都市民の年間消費支出の52％に相当）を突破した観光面では、「混雑」「宿泊施設の急増」「マナー対策」など新たな課題も。違法民泊は99％を営業中止・撤退させ、さらに市民の安全安心と地域文化の継承を重要視しない宿泊施設は「お断り」するなど、市民生活を最重要視した持続可能な観光へ、皆様と共に50の取組を徹底します。

新たな年を迎え、京都のまちをより安全安心に、より豊かに発展させていくべく全身全霊をかけて取り組む決意を新たに。

京都市京セラ美術館の再オープン、文化庁の京都への全面的移転や京都芸大の移転も見据え、文化・科学、地域力・人間力などあらゆる京都の強みをいかし、新産業の創出や、社会課題の解決を目指した「スタートアップ・エコシステム」構築へ！ それらを市民生活の豊かさにつなげ、「世界の文化首都・京都」への飛躍を目指し、市民の皆様と共々に全力を尽くしてまいります。

特集　3回シリーズ

学区社協の今③

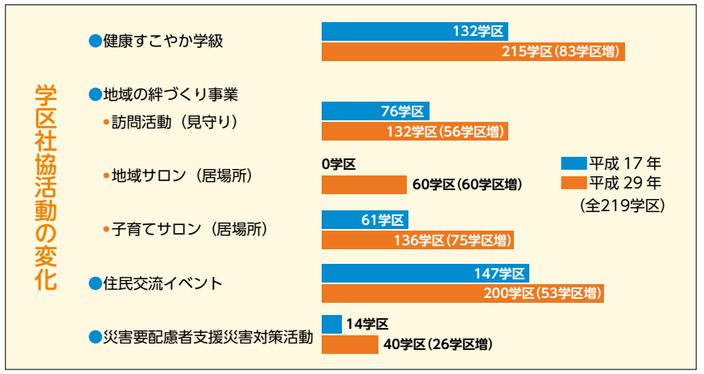
～誰もが安心して暮らし、つながりのある地域づくり～

昨年10月に、時代に即した地域支援のあり方を考える基礎資料として、「学区社協実態調査」を実施し、219の全学区社協からの「声」が寄せられました。最終回は、実態調査のまとめをダイジェストでお届けします。

学区社協活動がしっかり根を張り、大きく広がる

少子高齢化の進行やコミュニティの弱体化、孤立や貧困の問題の深刻化、災害の増加など、地域社会を取り巻く状況が変化する中で、健康すこやか学級をはじめ訪問活動や地域サロン・子育てサロンなど地域の絆づくり事業を中心に積極的に取り組まれています。

学区社協会長からは「住民同士の顔の見える関係やつながりが少しずつ増えてきた」「区役所や専門職、福祉施設の方とともに、まちづくりに参加する機会が増えた」という声があり、学区社協活動が地域に根を張り、関係者のネットワークが広がってきたことが伺えます。



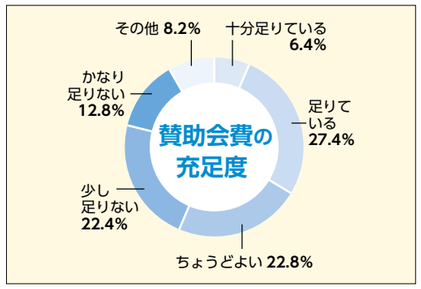
学区社協が抱えている課題

地域課題として「一人暮らしの高齢者が増えた。外に出てこられない人や孤独死も増えた」「町内会に入らない人も増え、高齢者や要支援者の把握は難しい。とくにマンション住民の方が把握できない」「生きづらさや困りごとを抱えている人の課題が把握しづらい」といった声が多くありました。

支援が必要な人を住民同士で支える活動を進めて、一人でも多くの方の福祉の意識を高めていくため「多世代が集まれる場づくりを進めたい」「他の区や学区の活動、障害や災害分野のことを学ぶ場づくりがこれから大切だと思う」などの声があがっていました。一方、組織面の課題として「役員を含む担い手が高齢となり、メンバーの固定化や、他の団体と兼職が広がる中で、担い手を増やして事務局体制を強化しないとしんどい」「賛助会費が減少する中で、事業活動の資金をどうしていくか」など不安の声も少なくありませんでした。とくに賛助会費については約3分の1を超える学区社協会長から「足りない」と回答があり、町内会からの脱退や加入者が増えない中でいかに財源を確保していくかが大きな課題となっています。

地域の課題	これからの学区社協活動
学区社協活動の担い手減少（141学区）	ボランティア(担い手)の養成（81学区）
住民同士のつながりの希薄化（89学区）	住民で地域の問題を話し合う懇談会（79学区）
高齢者の介護・支援（85学区）	多世代の住民が自由に集える場づくり（75学区）
孤立する人の増加（81学区）	課題の把握や実態調査（71学区）
防災に関すること（71学区）	学区独自の中長期的な活動プラン（53学区）

（全219学区）



「学び合う」「ふれあう」「支え合う」活動の継承と発展

このような実態が明らかになる中、学区社協では区社協と連携しながら、ボランティア（担い手）の養成や住民同士で地域の問題を話し合う懇談会、実態調査や学区独自の重点的な活動プランづくりに取り組んでいます。

今後とも、住民の方々が中心となって生活や福祉の課題を明らかにしながら、「学び合う」「ふれあう」「支え合う」活動を、学区社協、区社協、市社協の「総合力」と、行政や関係機関、施設などとの「ネットワーク」を発揮して「共に生きる福祉のまち〝京都〟」の実現を目指していきますのでご支援とご協力をお願いいたします。

▶「学び合う」活動（右京区・安井学区福祉委員会議）

▶「ふれあう」活動（北区・紫竹学区 カフェ〝ふらっと紫竹〟）

賛助会費とは

区社協と学区社協の活動にご賛同いただける個人や団体（企業）にご加入いただく賛助会員からお預かりする貴重な浄財で、身近な地域の福祉活動に活かされています。区社協と学区社協で受け付けています。

地域支援部

令和元年度 地域福祉推進セミナー
「気づき・つなぎ・支える」力の向上をめざして

8月30日（金）、ロームシアター京都にて、京都市民生児童委員連盟と合同で「地域福祉推進セミナー」を開催。来賓として門川京都市長、山本京都市会議長、青野京都市会副議長をはじめ、三宅保健福祉局長、安部健康長寿のまち・京都推進担当局長、久保子ども若者はぐくみ局長、各区長・担当区長をお迎えし、社協関係者や民生児童委員、関係行政職員などおよそ500名が参加しました。今回は、上京区における社会的な孤立の状態にある世帯への支援の実践から、社協と民生委員、行政の連携について理解を深めました。

基調報告

いかに地域福祉を進めるか「共に生きる」まちづくりの可能性

コーディネーター
藤松 素子 氏
佛教大学
社会福祉学部教授

「生きづらい」といわれる現代社会には、自助の強調や制度の狭間、社会的孤立など様々な課題があります。私たちにできることは何でしょうか？まず、地域に住んでいるからこそ気づくこと・できることがあります。そして、専門職につなぐことによって問題解決の方向が見えてきます。地域住民をはじめ、専門職、行政がそれぞれの役割を担うことによって支援が広がります。

実践報告

地域の中で、支援の輪を広げ困っている人を支え合う

櫻井 孝洋 氏
上京区社会福祉協議会
地域あんしん支援員

民生委員から「ごみ屋敷になっている家がある」と相談がありました。80代の男性が、50代の長男と同居しており、ごみ堆積の他にも複数の課題を抱えていました。「地域あんしん支援員設置事業」は、制度の狭間や複合的な課題など既存の制度だけでは解決できない課題を抱える方に寄り添いながら、支援の輪を広げていく取組です。サービスにつながらず支援に行きづまった時、地域の方々と一緒に考え助言をいただきながら支援を進めることで、学区社協においても居場所カフェに快く受け入れていただくことができました。地域と関係機関につながることで、ご本人を「困った人」ではなく「困っている人」として受け止め、支え合う活動に結びつけることができました。

関われる人が、関われるところで心を開くふれあいを

辻井 美智子 氏
上京区滋野学区
民生児童委員協議会
会長

ご近所さんが回覧板を渡そうと声をかけたことをきっかけに、世帯が課題を抱えていることがわかりました。相談を受けた民生委員が区社協（地域あんしん支援員）や地域包括支援センターなどと連携したことで配食サービスにつながり、民生委員や地域包括支援センターなどが送り迎えをすることで居場所カフェに参加できるようになり、服装などの見た目にも変化が見られました。また、遠方に暮らす娘さんからの提案で始まった「連絡ノート」によって、家族と支援者の情報共有も図られるようになりました。たくさんの支援者が関われたことで、ご本人の心を開き、民生委員も一人で抱え込むことなく取り組むことができました。

事例を積み重ねていくことで地域のネットワークを育む

前田 えり子 氏
上京区役所
健康長寿推進課
担当課長
（統括保健師）

統括保健師は、保健福祉センターにおいて、複合的な課題を抱える方の支援にあたって、総合的な視点から関係分野を組織的につなげる役割を担っています。困りごとを抱える方の中には、自ら相談することができず、地域や関係機関からの相談をきっかけにつながることも多いです。課題の解決だけでなく、困りごとを抱えたご本人が住み慣れた地域で継続して暮らしていけることが大切です。今後も、地域でともに暮らしている人として、見守り、関わり続けることのできるネットワークを育んでいきたいと思います。

まとめ

最後に藤松氏は、「地域の困った人ではなく、『実は困っておられる人』という気づきが次につながります。地域も家庭の事情も様々で、試行錯誤で進めていくしかありません。関係づくりは時間をかけてこそ実るものであり、産物として様々なネットワークが生まれます。連携を大切にこれからに活かしていきましょう」と、締めくくりました。

福祉ボランティアセンター

福祉ボランティア 社協フェスタを開催
～共につくろう きょうの絆～

10月13日（日）、ひと・まち交流館 京都にて、「防災」をテーマに第10回「福祉ボランティア 社協フェスタ」を開催しました。当日は、約1500人の市民の皆さんが来場され、福祉や災害時の備えを楽しく学びました。

地域福祉を活性化し暮らしやすいまちづくりに取り組む

式典では、小石会長、門川京都市長、山本京都市会議長が挨拶を述べられ、福祉の絆づくり事業贈呈式では、21団体に目録が贈られました。

また、ジェフ バーグランド氏をお招きし「ボランティアのこころが息づくまち・京都―わたしたちが『ともに生きる』ということ―」をテーマに講演会を開催しました。

▲ジェフ バーグランド氏
京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科長

実践的な防災知識を学ぶ
～命を守る行動から備えることについて～

会場では、市社協や多様な機関・団体が出展。（一社）おいしい防災塾の「防災おかしポシェットづくり」では、子どもたちがスナック菓子や飴玉を使ったポシェットづくりにチャレンジ。参加したお子さんの母親は「子どもと楽しみながら災害に備えられる」「非常食や避難所について、子どもと話す良い機会となりました」と話されました。家庭版真空調理「パッククッキング」の実演では、ポリ袋に食材を入れて真空状態にし、少ない水と調理器具で衛生的に調理する方法を紹介。下京消防団からは、成人や乳幼児の応急処置を学びました。そのほか、ゲームをしながら防災の知識と知恵が身につく「イザ！カエルキャラバン！」や、パソコンやスマホを活用した防災情報を収集する術を学ぶコーナーなど、いつ起こるかわからない「災害」に備えるための情報を幅広くお伝えしました。

▲防災おかしポシェットづくり

▲教えて消防団員さん!!
災害時に役立つあれこれ

災害時、自分自身・家族・地域での被害を少しでも小さくするために、今できること、しなければならないことを具体的に考え、行動するきっかけにつながることを期待します。

▲災害時に役立つパッククッキング

この事業の開催にあたり「赤い羽根共同募金」、「公益財団法人京遊連社会福祉基金」の助成金を活用させていただいております。

福祉の絆づくり事業助成 贈呈団体・施設紹介（21団体・施設、順不同、敬称略）

- 大徳寺保育園
- 行ってみよう会
- オータムフェスタ 2019 実行委員会
- 認定 NPO 法人アンビシャス
- ヘルパーステーションきよみず苑
- 社会福祉法人京都育成の会 西寺育成苑
- 嵐山寮地域密着型総合ケア施設ひろさわ
- 嵐山寮特別養護老人ホームうたの
- 元向島中学校跡地地元利用運営委員会
- 高齢者福祉総合施設ももやま
- オレンジカフェ上京実行委員会
- 京都こどもクッキング
- 中京保護司会
- 岩屋こども園アカンパニ
- 青い空保育園
- 京都母子生活支援施設協議会
- こぐま松尾キッズクラブ
- NPO 法人なんてん 友輪館
- みなネット
- サロンくいな
- 京都市うずまさ学園 京都市太秦障害者デイサービスセンター

生活支援部
介護保険事業部
長寿すこやかセンター

チャレンジ就労体験事業
―社協の総合力を活かして取り組む生活困窮者の自立支援―

市社協では、区社協と連携し、すぐに就労することが困難な生活困窮者の自立を支援する「チャレンジ就労体験事業」を平成25年度から京都市の委託を受けて実施しています。

この事業は、病気や障害・長期間の離職などの理由から、すぐに働くことが困難な生活困窮者などに対して、地域の事業所のご協力を得て、有期・短時間の就労体験を提供することで、社会生活の自立や就労に向けてステップアップを図ることを目的としています。

昨今注目されている「ひきこもり」や「社会的孤立」の問題ですが、背景に病気や障害、複雑な家庭環境などの課題を抱えるケースも多く、働きたい気持ちはあるが、自信がない・長期間のブランクがあるという方も少なくありません。チャレンジ就労体験では、そういった不安を抱える方が、自分らしく働くための機会を提供しています。

こんな体験してます! 老人福祉センター

体験の内容
- センター内の清掃
- 庭木の剪定・除草作業
- 事務補助（広報紙折り等）、利用者応対　等

体験のようす

週1回、1時間の清掃活動から開始しました。初回は開始15分前に来られ、丁寧に作業し、一人ではできなかった動作を家で練習するなど、とても真面目な方で、ご本人の良いところを褒めながら仕事をする上で大切なことなどを随時お話しました。

はじめは緊張している様子でしたが、徐々に慣れて、自分から挨拶ができるようになり、体験中も笑顔がみられるなど、表情が豊かに変化していきました。コミュニケーションが苦手だった方が、趣味や家族の話をするようになり、体験終了時には、自身の思いを職員に伝えることができるようになりました。

体験先の声

受入の際には、事前に体験者の生活状況などを聞いてはいるものの、どう対応してよいか悩みました。体験者にとって一つのステップなので、今後に繋げる声かけを丁寧に行いました。体験者が自分の足で人生を歩んでいくきっかけになれるよう、福祉施設の社会貢献として、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

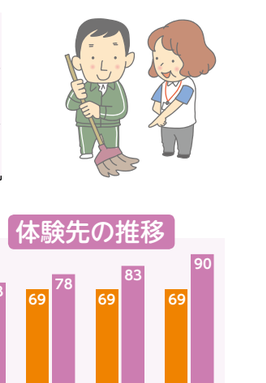
老人福祉センターはさまざまな事業を通じて、高齢者の「生きがいづくり・仲間づくり・健康づくり」を支援する施設です。京都市内在住の60歳以上の方なら、どなたでもご利用いただけます。市社協では、市内17箇所のうち16箇所を管理・運営しています。

チャレンジ就労体験事業は、生活困窮者自立支援制度に基づく就労準備支援事業として位置づけられています。

Q&A

Q どんな仕事があるの？
A 清掃や職員の補助業務など。作業内容は、体験希望者・体験先と相談して決めています。

Q どんな体験先があるの？
A 高齢・障害・児童分野の福祉施設、スーパー、カフェなど。市内159箇所の事業所にご協力いただいています。



Q どんな人が対象になるの？
A 長期間の離職（就労経験がない方も含む）や体調面からすぐに働くことが難しい生活保護受給者・生活困窮者が対象です。

- 平均年齢は43歳。（18歳～64歳）
- 男性7割、女性3割。
- 平均離職期間は8年。（平成30年度実績）

こんな体験してます! デイサービスセンター

体験の内容
- センター内の清掃
- 洗濯物干し・畳み
- 送迎車両清掃
- 配膳、食器洗い
- 整髪補助
- 花壇の水やり
- レクリエーション、工作補助　等

体験のようす

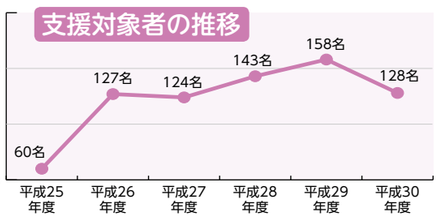
ひきこもりがちで人との関わりが苦手な方で、体験を開始した当初は週2回、2時間の短時間の活動でしたが、徐々に体力がついて時間を延ばすことになりました。また、一人でできる作業等を通して職員や利用者との挨拶から関わりを始め、徐々にフロアで利用者と関わったり、一緒に作業をするようになるなど、活動内容をレベルアップしていきました。

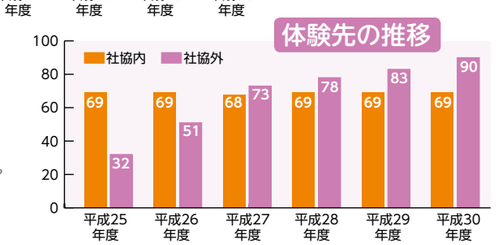
体験終了後も継続したいと希望され、そのまま就労していただくことができました。業務内容については、まずは就労体験時と同じものにしていますが、定期的にご本人と相談しながら少しずつ業務内容を増やしていくことを検討しています。

体験先の声

受入開始当初は不安も多くありましたが、実際に体験者と関わりをもち、体験者の変化を感じられると職員のやりがいや学びにつながりました。市社協が運営する施設として、今後もチャレンジ就労体験の受入、その後の就労も想定しながら、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

市社協では市内にデイサービスセンター17箇所、ケアプランセンター12箇所、地域包括支援センター5箇所、ショートステイ1箇所、小規模多機能型居宅介護1箇所、グループホーム1箇所の計37箇所を管理運営しています。





昨年度は、支援対象者128名のうち54名が体験を終了し、うち15名が一般就労につながりました。また、体験後に就労継続支援事業所への通所につながった人や、ひきこもりがちだった人がボランティアや地域の活動に参加するようになったなど、就労だけでなく、体験を通して生活に良い変化があったという方もたくさんおられます。

さらに、体験先からも受入を通して「地域の困っている人の存在を知ることができた」、「職員の間で多様性を受け入れる雰囲気が広まった」などの声もいただいています。

ひと・まち 交流館 京都

児童室を活用して子育てサロン「プーさん」が進める親子の仲間づくり

子育てサロン活動の「プーさん」は、ひと・まち交流館京都の近隣5学区の主任児童委員が共同で運営されています。皆さんは、サロンや訪問活動をとおして親子が孤立しないよう仲間作りのお手伝いをされています。

当館の周辺地域は子どもが多いわけではありませんが、保育園、児童館など様々な施設、機関が連携して情報を伝えているので、サロンには毎回多くの親子が集まり新たな出会いが生まれています。

当館の児童室は、授乳室や遊び道具が整備されているので利用者に安心して参加していただいています。

▲子育てサロン「プーさん」代表の柴山さん(右)

児童館事業部

南大内校区子育てサロン 子育て支援のネットワーク「はぴはぴ」

子育て中の親子の居場所となっている子育てサロンの多くは、地域の学区社協や民協などの皆さんが中心となって運営されています。市社協が運営する児童館では、会場や備品の提供などを通じて子育てサロンへの支援を積極的に行っています。

南大内児童館を会場に毎月1回活動されている南大内校区子育てサロン「はぴはぴ」では、手作りおもちゃの工作や季節行事のクリスマス会や豆まきなど多彩な企画をされています。

昨年、児童館まつりの会場が小学校の体育館に移ることとなり「はぴはぴ」のスタッフの皆さんに、「乳幼児コーナーを担当していただけませんか?」と声を掛けたところ快く応じていただきました。当日は、「はぴはぴ」のスタッフと乳幼児親子が一緒にオープニングの「アンパンマン体操」を踊ったり、手作りの「おねんねアート」を企画したりしていただきました。終了後、「はぴはぴ」のスタッフからは「乳幼児親子に楽しんでもらえてやりがいがあった」「また、来年もまつりに協力したい」「まつりの会場が学校になって良かった」などの声をいただきました。

「はぴはぴ」の活動の場が児童館から外に広がり、地域にアピールするとともに、児童館の職員にとっても、これまでのつながりのなかった方との出会いの機会になりました。

継続的に子育てサロンを開催していただくことで、児童館を利用する子育て世代と地域で活動されている方がつながり、子育て支援のネットワークが広がり、力強いものになっていることを実感するようになりました。

▲子育てサロン「はぴはぴ」クリスマス会集合写真

社会福祉研修・介護実習普及センター

地域子育て支援ステーション研修後の行動変容 ～京都市修徳児童館『修徳カレーの日』実践報告～

社会福祉研修・介護実習普及センターでは、様々な研修を実施しており、研修内容を職場で実践し、活かしてもらうことで、福祉サービスの質の向上に努めています。また、地域に開かれた施設の事業を研修で実践報告し、地域共生社会実現のために取組を進めています。

平成29年度に実施した地域子育て支援ステーション研修では、社会福祉法人京都福祉サービス協会京都市修徳児童館の地域における公益的な取組を実践報告していただきました。

施設紹介

京都市修徳児童館

対象者　0歳～18歳までの児童
（学童クラブ等、事業によって異なる）
開館日　月曜～土曜（日曜、祝日、年末年始除く）
『修徳カレーの日』：毎月第3金曜

実践報告を行った当時から、どのような変化があったのか、京都市修徳児童館の木戸玲子館長に取材をしてまいりました。

京都市修徳児童館の『修徳カレーの日』は、併設している総合福祉施設修徳の食堂スペースを活用し、孤食を余儀なくされている独居高齢者や子どもたちが食事を楽しみながら、安心できる居場所を創出する事業としてスタートしました。

「ひとりでご飯を食べている子どもたちは、地域の方や学生ボランティア、施設の職員など様々な世代にかかわっていただき、たくさん話を聞いてもらいました。いっぱい褒められ認められ、誰かのために自分の力を生かすこともできるようになりました。少し先を行く大学生や若い職員をモデルに、自分の将来を思い描けるようになった高校生もいます。『そのままでここにいていいんだ』という居場所を今後も大切にしていきたいです。

また、実践報告をすることによって、職場全体でこれまでの事業の振り返りができ、事業の見直しも図れました。児童館だけでなく、多くの方と一緒に事業を進めてきた成果が職員のやりがいにもつながっています。」と笑顔で話されました。

研修後の行動変容が支援の質の向上につながります。ぜひ当センターの研修をご活用ください。

福祉事業を始めるなら
賠償責任保険は必須です!
福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。
充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせてご加入いただけます。
福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。
詳しい補償内容はこちらまで
福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店
京都の総合保険代理店 SRM 株式会社エスアールエム
専用TEL 075-255-0883
福祉の保険ホームページ www.srm-net.co.jp/
引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社
この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。
ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

ご寄付のお礼

貴重なご厚志ありがとうございました。(敬称略)

平成30年
12月　京セラ㈱従業員一同　京セラ株式会社 本社
　　京セラ労働組合 京都支部
　　株式会社　ホテルプリンセス京都

平成31年
1月　株式会社　京セラソーラーコーポレーション
　　菱本　修
3月　野中優子税理士事務所

令和元年
5月　南　徹
6月　フジモトHD株式会社
7月　大同生命保険株式会社
9月　木村　信夫
10月　黄桜株式会社
　　京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター
11月　公益財団法人　京遊連社会福祉基金
　　京都車いす点検ボランティア　スイマルク

※その他複数の匿名の方からもいただいています。

日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）生活支援員（臨時職員）募集中!!

高齢の方や知的・精神に障害のある方などで、判断能力が十分でない方に対して、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理についてお手伝いを行う事業。

担い手として、利用者の地域生活を支援する生活支援員を募集しています。

現在、市社協では、生活支援員となるための養成研修の参加者を募集しています。関心をお持ちの方は、どうぞお気軽に下記までお問合わせください。

養成研修：1月29日(水)、1月31日(金)、2月4日(火)の3日間開催。いずれも13時30分～16時15分。会場はひと・まち交流館　京都2階大会議室。事前申込制。

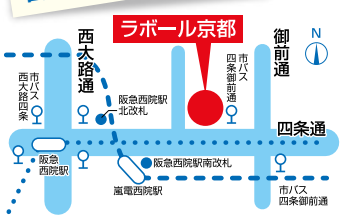
●申込・問合せ先　**生活支援部　電話：075-354-8734**

貸会議室　ホール　等のご利用に!

ラボール京都

多様なニーズに対応できる大ホールと中小会議室全14室(14名～342名)を2,376円～(2時間利用)とリーズナブルな価格で!
趣味の会や会議・研修などお気軽にご利用ください。

四条御前通バス停 すぐ
西院駅 徒歩1分



TEL075-801-5311
ラボール京都

京都市中京区壬生仙念町30-2(四条御前西入)
ラボール京都(公益財団法人 京都労働者総合会館)

遺言書作成や相談でお困りの方へ

遺言・相続センター

- 相談料　無料(1回20分)
- 受　付　平日(月～金)　午後1時～3時30分

申込受付後、折り返し弁護士が申込者へお電話します。

無料で手軽な 電話法律相談

まずはお電話を!!

☎075-255-4990

京都弁護士会
KYOTO BAR ASSOCIATION

福祉のまちづくり

182号 2020年1月7日発行
●発行／社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
TEL.(075)354-8731 FAX.(075)354-8736

京都市社協　ホームページで京都市社協の活動を映像でご覧いただけます。携帯電話でもバーコードリーダーで右のQRコードを読んで簡単アクセス!

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側)「ひと・まち交流館 京都」
●発行人／小石玖三主 ●編集人／芳賀正昭 ●編集協力／株式会社きかんしコム

KES ステップ2登録
京都市社会福祉協議会では、京都市における環境負荷の管理・低減の規格であるKESステップ2を認証取得し、環境負荷軽減に努めています。

この広報誌は一部共同募金の配分金で発行しています。

PRINTED WITH SOYINK